

「女子学生の就職活動アンケート」結果

2013年3月実施

安倍政権の経済政策「アベノミクス」の中で、政府の成長戦略の中核に掲げられた「女性の活躍」。その背景には、女性管理職の割合が先進国の中でも突出して低かったり、出産を機に仕事を辞める女性の割合が6割を超えているなど、女性の能力発揮が十分なされていないという現状がある。大学生の就職環境は上向き傾向にあるが、女子の就職は依然厳しい。総合職か一般職か、といった選択肢も多く、女子学生の就活は多様化している。そこでディスコでは、今春卒業の女子学生を対象に就職活動や就労意識に関するアンケートを実施、就職活動を経験した女子学生の等身大の声をまとめた。

《調査概要》

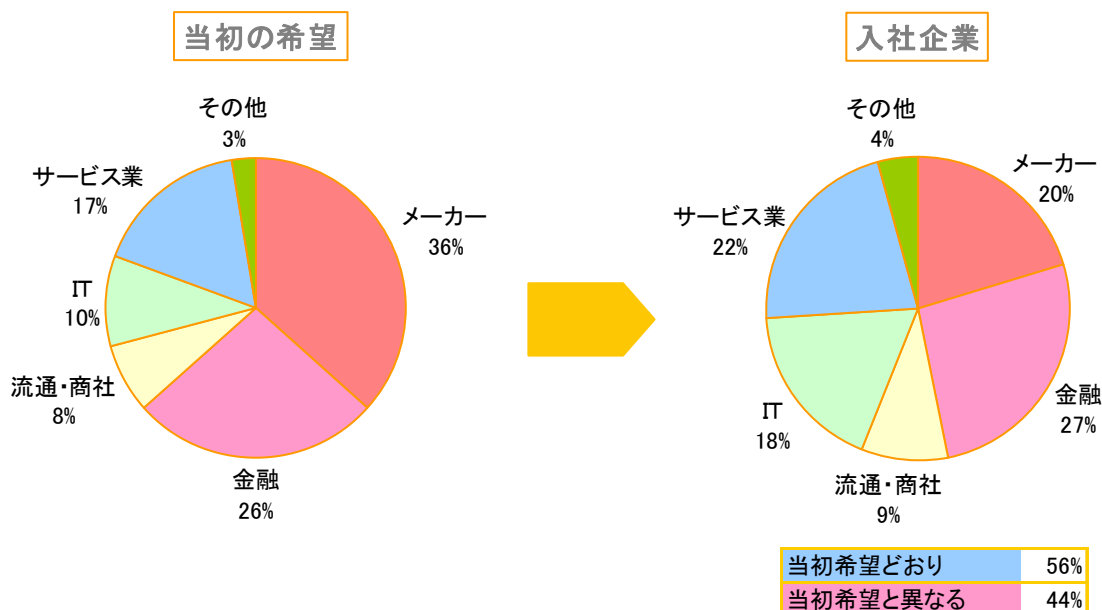
調査対象 : 日経就職ナビ 2013 就職活動モニター (2013年3月卒業) のうち、卒業までに就職先が決まった女子学生
 調査時期 : 2013年3月19日 ~ 22日
 調査方法 : インターネット調査法
 回答者数 : 196人

	学部	修士	合計
文系	144	0	144
理系	35	17	52
合計	179	17	196

調査機関 : 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

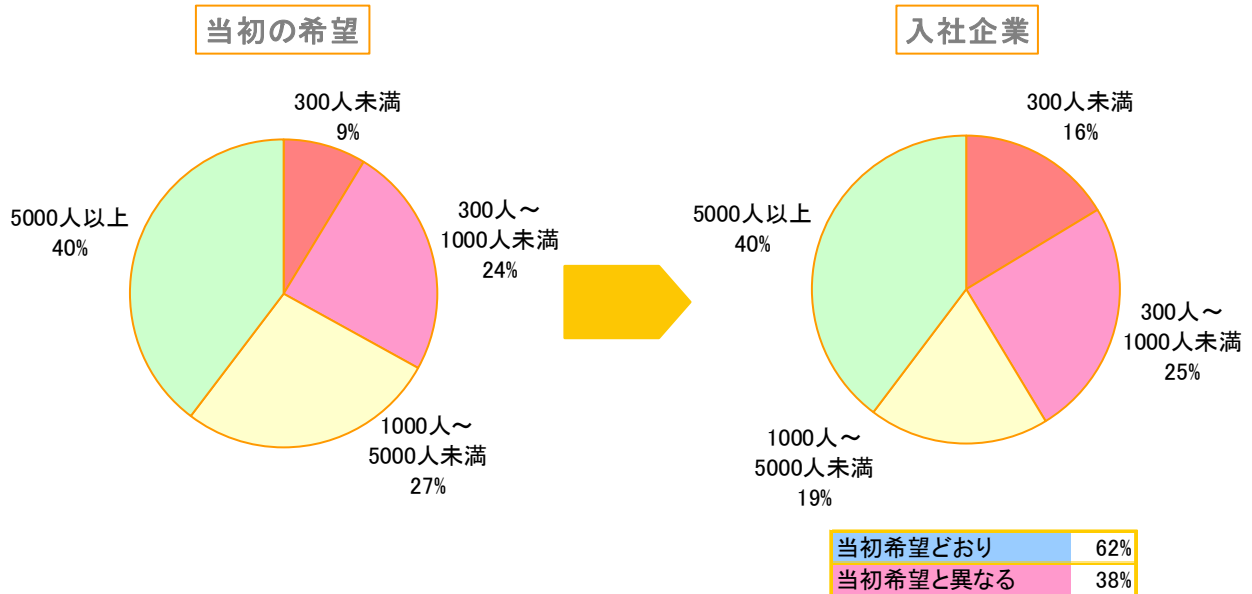
[1] 業界について

就職活動をスタートした当初(3年生の12月頃)に希望していた業界と、実際に入社することになった企業の業界を比較した。活動当初は「メーカー」を希望する人が多く36%に上ったが、入社企業では20%にとどまった。代わりに「IT」が、当初希望10%だったのが入社企業では18%に増え、「サービス業」が17%から22%に増えるなど、これらの業界が受け皿となっている様子がうかがえる。当初希望と同じ業界に就職した人は56%だった。



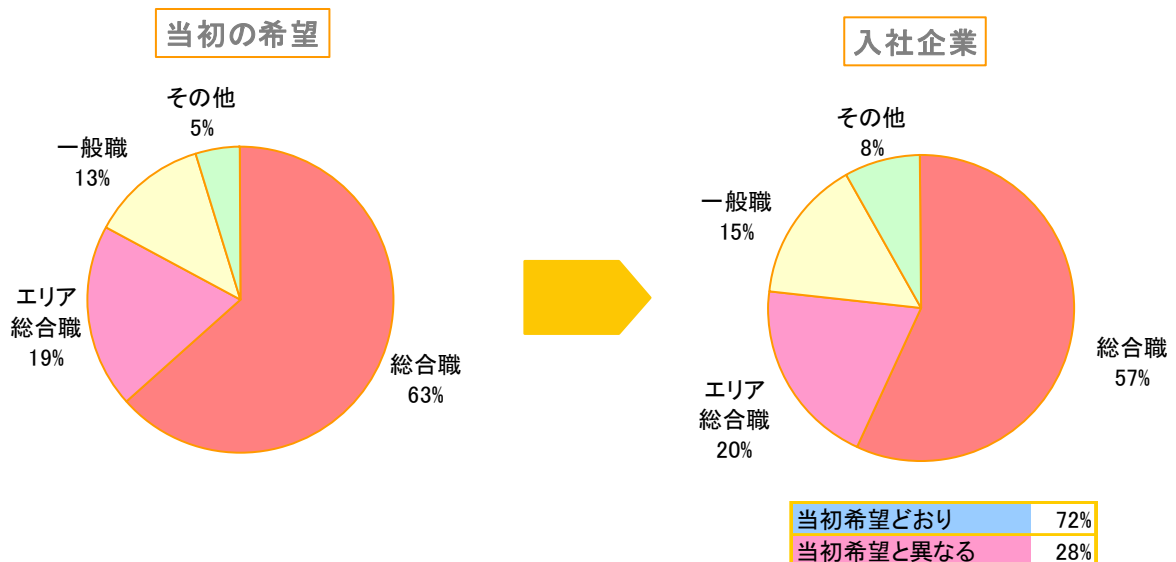
【2】 企業規模について

次に、企業規模を比較したい。就職活動スタート当初は、従業員「300人未満」の中小企業を希望していた人は9%と1割に満たなかったが、入社企業では16%に増えた。逆に割合が減ったのは、「1000人～5000人未満」の規模で、当初は27%だったが、入社企業では19%へと8ポイント減った。「5000人以上」は40%で変化は見られなかった。当初希望どおりの規模の企業に就職できた人は62%だった。当初希望と異なる人は、希望よりも小さい規模の企業に決まった人が圧倒的に多く、大企業への就職の難しさがうかがえる。



【3】 コース（職掌）について

男子のほとんどが総合職を選ぶのに対し、女子は希望の働き方等によって多岐に亘る。しかし、必ずしも希望通りのコースに就くわけではなく、今回の調査では28%が当初希望と異なるコースでの入社を決めていた。当初「総合職」を希望していた人は63%だったが、入社企業では57%へと減少した。その分、「エリア総合職」「一般職」などに流れた格好だ。そのコースを選んだ理由は、総合職希望者は「キャリア形成」「給与水準の高さ」などを挙げるケースが多く、エリア総合職や一般職は、「自宅通勤」「地元への愛着」などを挙げるケースが多かった。就職活動を進めるうちにキャリアプランへの考えが変わったり、自分の適性を考え直したりして、柔軟に判断する姿勢も目立った。（次ページにコメントを紹介）



■「総合職」にこだわった理由

- 制限なくキャリアを積みたかったし、給料にも差がでてくるから。
- せっかくそこそこの大学を出て学んできたのだから、それに見合うような仕事がしたかった。自分の仕事に制限をもちたくなかった。
- 勤務できるエリアが広い方が活躍できる場も多くなり自分の可能性が広がると思ったから。
- 男性と対等に働きたいという価値観の友人が多く、影響された。また、実家が地方にあるので、都市部で働くには総合職でないと家賃補助が出ないなどといった心配があったため。
- 理系の大学院生として技術系の職を希望する場合は特に、総合職以外では仕事内容が限られるため。メーカーを志望していたので、海外を含む全国転勤は覚悟の上だった。
- 海外勤務を希望していたため。
- 若いうちに全国各地を回ることで、自分の成長や、考え方の変化につながるのではないかと考えたから。

■「エリア総合職」にこだわった理由

- 自分の実家がある場所で、かつ仕事の幅をできるだけ狭めずに働きたいと思ったからです。
- 結婚や出産を経ても無理せず仕事を続けられると思ったから。
- 転勤を望んでいなかったが、責任のある仕事をしたいと考え、一般職ではなく地域総合職を希望し続けた。

■「一般職」にこだわった理由

- 転勤の可能性があるライフプランを立てにくいから。
- 自分の生まれ育った地域に愛着があり、この地域で働き地域に貢献したいという気持ちがあったからです。また、自分の性格を考えると一般職コースが適していると考えました。
- 一般職なら結婚後も仕事を続けることができると考えたから。

■「総合職」から「エリア総合職」「一般職」に変更した理由

- バリバリ働くキャリアウーマンに憧れたが、冷静に考えると、自分の体力的にも将来長く働くことを考えると無理せずに実家から働けるコースがいいと思ったから。
- 仕事のやり甲斐やキャリアを重視するなら総合職だが、自分が幸せに生きていくには何が必要だろうか、どういうときに頑張れるだろうか、と考えたら、家族や友達が近くに居て、また慣れ親しんだエリアに限定されつつ総合職と同じ仕事ができるエリア総合職が良いと考えた。
- 就職活動を続けて行くうちに、やはり転勤がない方が良いのではと考えたから。
- 総合職よりも一般職のほうが自分に向いていると思ったのと、今住んでいる場所に残りたいという思いが強くなったから。

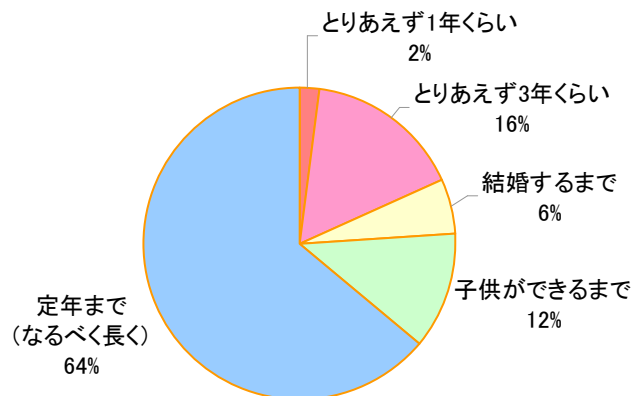
■「エリア総合職」「一般職」から「総合職」に変更した理由

- 当初は、生まれ育った場所で働きたいと思っておりました。しかし、就職活動を行っていくうちに、様々な場所での経験も必要なのではないかと考えたからです。
- 場所をしぼってしまうと仕事も限られてしまい、本当に自分がしたいことがみつからなかったため。
- 志望企業の募集が総合職のみだったため。
- 決まらなかったのが妥協しました。

[4] 予定勤務期間

入社企業にいつまで（どのくらいの期間）勤める予定かを聞いた。最も多かったのは「定年まで（なるべく長く）」で64%と6割を超えていた。次に多いのは「とりあえず3年くらい」で16%。厚労省の調べでは、大卒女子の3年以内離職率は34.7%にのぼっているが（2009年卒者）、この数字を見る限り、入社時点では早期離職を考えている人はそれほど多くはなさそうだ。また、出産を機に離職するケースも多いが、今回の調査では「子供ができるまで」は12%にとどまった。ちなみに、「定年まで」を選んだ人は、総合職入社者で65%、一般職など総合職以外での入社者で62%と大きな差はなく、自分に合う働き方なるべく長く勤務したいとの考えが主流と言える。

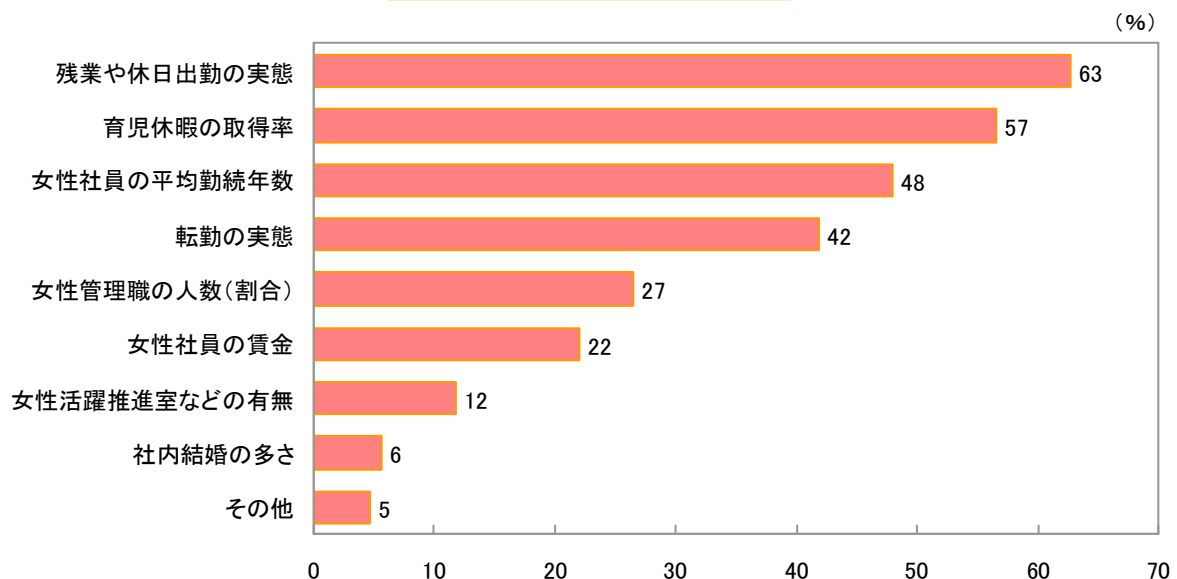
入社企業での勤務予定期間



[5] 企業研究で意識したこと

就職活動中、特に企業研究をする際に、意識したり調べたりしたことを選択肢からすべて選んでもらった。最も多かったのは「残業や休日出勤の実態」で63%。総合職入社者では59%だが、総合職以外での入社者では68%にのぼった。次に多かった「育児休暇の取得率」(57%)は、逆に総合職60%、それ以外52%と、総合職入社者の数値が高く、出産後の働き方まで強く意識している様子が見える。よくメディアなどで取り上げられる「女性活躍推進室」については、その有無を意識したのは12%にとどまった。

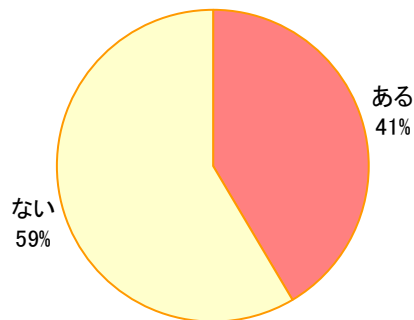
企業研究の際に意識したこと



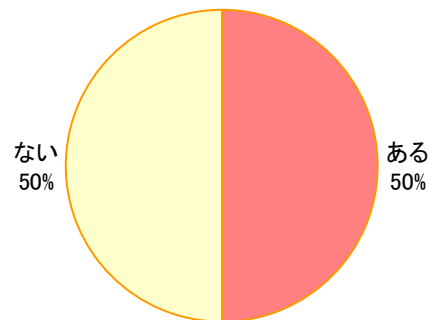
〔6〕女性で「よかった」「損した」と思った経験

就職活動中に「女性でよかった」と思った経験があると回答した人は41%。残りの59%は、よかったと思った経験はないと回答。「女性で損した（理不尽だ）」と思った経験については、経験がある人となない人とでちょうど半々に分かれた。全体の22%が両方の経験があると回答した。よかったと思った理由としては「選択肢の多さ」や「プレッシャーの少なさ」を挙げる声が目立った。逆に、損した（理不尽だ）と思った理由としては、企業側の抱く女性の固定観念に苦しんだり、「総合職のハードルの高さ」を訴える声などが多かった。

就活中に「女性でよかった」と思った経験



就活中に「女性で損した」と思った経験



■「女性でよかった」と思った理由

- 総合職か地域総合職か一般職か、というように選択肢が多い。
- 地元が好きのため転居を伴う転職をしたくなかったが、男性で一般職やエリア総合職に就いているケースが全くなかったから。
- なかなか内定が得られないとき、親や周囲からのプレッシャーは男性の方が強い気がする。女性は、主に結婚や育児等を理由に多様な生き方が社会的に認められていると思う。
- 男性と違い、一生働かなければならないという縛りが緩い気がしたので、幅広い業界をみる事ができたのではないかと感じています。
- 自分は理系の女性だが、絶対数が少ないのでライバルが少ないと感じた。（もちろん男性もライバルですが）
- 採用にあたっては不利だが、採用されてしまえば割と優遇されているようだから。
- 服装やメイクなどで印象を変えやすい点。志望企業によって変えていた。

■「女性で損した（理不尽だ）」と思った理由

- すぐ辞めると思われやすい。
- 「女性だから総合職じゃなくて一般職の方が良いんじゃないの、コールセンターとか」という発言をされたことがある。舐められていると思った。
- 総合職ではなかなか内定が出にくい。
- ライフプランを考えた時に結婚や出産で仕事に影響が出やすいのは女性だと感じたため。
- 「この会社ならどんなに大変でも総合職として働きたい！」という思いを持って臨んでも、「結婚しても転職あるけど、本当に大丈夫？」と聞かれ、疑われているような気がした。
- 技術職の面接で、女性がお茶出しをすることをどう思うか？と質問された。
- 結婚後や出産後についてたびたび聞かれるので、面倒でした。
- 製造業で面接を受けたとき、女では無理だというような顔をされてしまった。

[7] 企業に言いたいこと

就職先に限らず企業に言いたいことや要望を自由に書いてもらった。様々な注文が出されたが、どれも就職活動を実際に経験した女子学生ならではの率直な意見であり、臨場感に溢れている。企業人として考えさせられる意見も多いのではないだろうか。「社会で活躍したい」「自分の能力を発揮したい」という切実な望みが感じられる意見が多かった。

■企業に言いたいこと

- 女性を雰囲気だけで判断しないでほしい。
- 女性の総合職を増やして欲しい。
- 建前では女性も採用すると言っていますが、面接や採用データを見れば、男性を欲しがっているんだと思うことはよくありました。
- 女性が子どもが産むことで、企業に迷惑（休暇等）をかけるかもしれないが、それは女性にしかなできないことであって、またそうすることでしか人類の存続はないのだから、産休や育休のシステムは今後も活発的に取り入れ続けてほしい。
- 男女で能力の差をはかるよりも、個人個人をしっかりと見て採用すべきだと思う。今だに生涯賃金で男女差があるのは悔しい。女性の雇用に関して、日本は世界的に遅れているという事実を恥ずべきだと思う。
- 男女平等って難しいけれど、努力し続けるべき。女性は仕事に向かないなどといった主張があったりするが、同じ人間なのだから男女で差別しても仕方が無い。男性に良いところがあるように女性にも良いところはあるはず。特に年配の人ほど古い考えを持つ方が多いので悲しい。
- やはりまだまだ女性の採用が少ない企業が多いと感じられる。もっと女性の管理職も増やしてほしい。さらに、出産後や育休後も働ける体制を国全体でしっかり作ってほしい。
- 育児休暇や生理休暇など、女性特有の休暇をもっと認知してほしいし、それが弊害となって管理職になれないというのはいかがなものか。
- 総合職であっても入社前に一年目の勤務地がある程度限定される（例えば関東圏など）とより就活がしやすいのではないだろうか。家族の介護や結婚等、女性の方がまだまだ影響を受けやすい現代、そろそろ総合職＝全国どこにいくかわからない、というのは企業を選択する上で難しいと感じた。
- 全ての女性が家庭をもつことを目的としていると決めつけないでほしい。
- 転勤を厭わないといっても信じてもらえない。
- 顔やスタイルで人を判断する人が面接官なのは良くないと思います。
- 建前が多く、本音というか、実際のところどうなのか、わからない企業が多い。もちろん良いところを見せたいのはわかるが、くるみんマーク取得制度など、もっとわかりやすい第三者機関による評価が欲しいと感じた。
- 女性社員のあたりが強い、転勤を希望すると意外な反応をされる。
- 女子だし無理しないで早く帰って良いよとインターン中に言われた。周りが男子の就活生だけで、何でいるの？的な雰囲気の説明会が多々あった。